

# act 3

art, culture, tradition

[発行] 札幌市教育文化会館  
アクト

OCTOBER 2010



# OPERA

オペラ

*Così fan tutte*

# ひとの数ほど、 オペラがある。

オペラって、なんだか遠い世界…。たしかに1公演が数万円もするチケットがあったりすると、もう絶対ムリ!っと思うかもしれない。けど、そこまでの魅力がどこにある? というのも正直気になるところ。

オペラがイタリアで生まれて400年以上。その間様々な作品が世界中で生み出され、そして今も同じ演目が繰り返し上演され続けている。どうして、そんなに永くオペラは愛され続けられているのか。それは、オペラは人間の心のドラマをいつも描いているから。貧富の差があっても、

時代が変わっても、基本的にひとが抱く愛や憎しみの心は変わらない。そして、言葉だけでは伝わらない想いを、その切実さを、繊細な音楽が表現してくれる。人体のぎりぎりまで鍛え抜かれた美しい歌声が、心の中に染み入ってくる。舞台には、演じるひとの数だけ、観る人の数だけのオペラがある。違う国の文化だから「?」の多いオペラだけど、だからと言って食わず嫌いをしてしまうのは、もったいない! ちょっとだけ知識を仕入れて、オペラに足を運んでみよう。

# Peter Ilyich Tchaikovsky

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

ロシアの作曲家チャイコフスキーは「白鳥の湖」「眠れる森の美女」「くるみ割り人形」などのバレエ音楽で有名ですが、生涯に10曲のオペラを完成させ、亡くなるまで新しいオペラのストーリーを考えていたといえます。

## 「イオランタ」より

イオランタ *Iolanta*

目が見えないことを隠して育てられた美貌の姫、イオランタ。騎士ヴォデモンはその美しさにすっかり魅了され、姫に会いたくて立ち入ると死刑になる庭に足を踏み入れてしまいます。姫の目の手術が成功すれば、ヴォデモンの死刑を取り消そうという王。失敗すれば自らの命も危うくなる手術を、イオランタは受けるのか。

## 「魔笛」より

パバゲーノ *Papageno*

モーツァルトが生涯最後に完成させた「魔笛」。鳥に扮して鳥を捕まえる仕事をしているお調子者の鳥刺し・パバゲーノは、メルヘンな物語をさらにおもしろおかしくしていきます。パバゲーノの恋人パバゲーナとの二重唱「パ・パ・パ」は、つつい真似したくなるような楽しい歌です。

いわずと知れた音楽の天才、モーツァルト。交響曲や室内楽などあらゆるジャンルの名曲を残していますが、一番力を入れていたのがオペラ。彼の手にかかれば、どんな荒唐無稽な話も素晴らしい音楽のオペラに仕上がってしまいます。

# Wolfgang Amadeus Mozart

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

泣けるオペラの作曲家といえば、プッチーニ。「トスカ」「蝶々夫人」「ラ・ボエーム」など、名だたる名曲を残しています。その旋律は繊細ですが覚えやすく、オペラやクラシック初心者でも親しみやすいのが特徴。北京を舞台にした「トゥーランドット」など異国情緒豊かな作品も書いています。

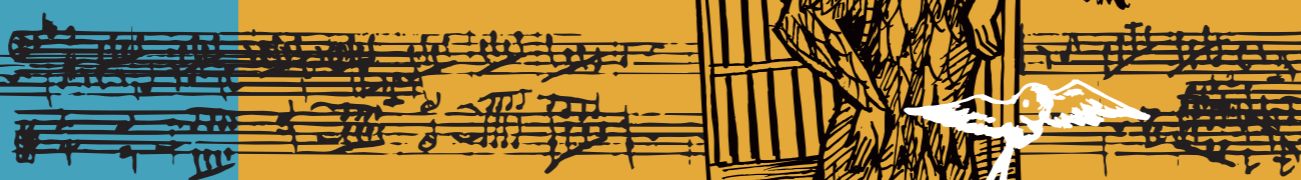
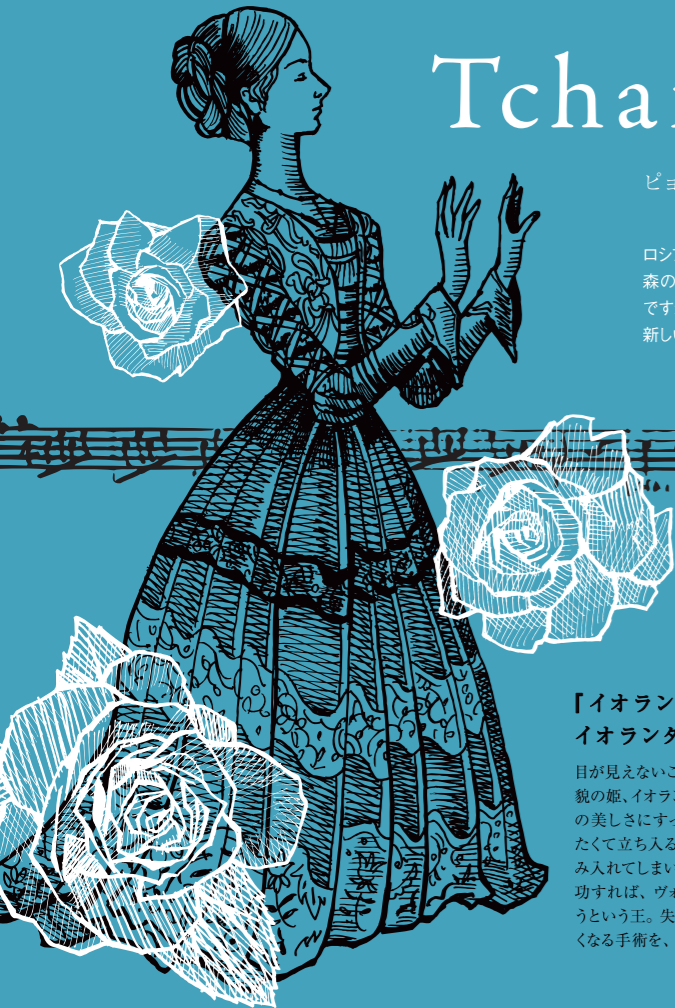
# Giacomo Puccini

ジャコモ・プッチーニ

## 「蝶々夫人」より

蝶々夫人 *Madama Butterfly*

舞台は1890年、長崎。アメリカ海軍士官のピンカートンは没落藩士令嬢の蝶々さんを現地妻として迎え入れます。しかし、アメリカに帰ってしまったピンカートンは、3年たっても帰ってきません。再びピンカートンがたずねてきたとき、彼にはもう別の妻がいることを知り…。蝶々さんの純粋な愛に、心を打たれます。



# オペラ

OPERA

知っておくとちょっと便利な、オペラのミニ歴史。

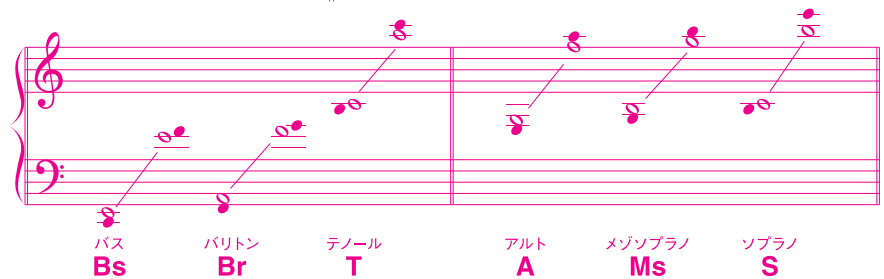
最初のオペラはこれ！ といいたいところだけど、実は最初のオペラの楽譜は残っていない。1600年ごろ、日本だとちょうど江戸時代初期のころにイタリアのフィレンツェで知識人たちが集まっていたサークルで上演された「ダフネ」が始まり、といわれている。当時はレオナルド・ダ・ヴィンチなどが活躍したルネサンス時代の終わりごろ。規律の厳しいキリスト教の文化から、もっと自由になるう！ というのがルネサンスの原動力になっていたので、演劇もおもしろいことやってみよう、と知識人は考えた。そこで、昔ギリシャで上演されていた全幕歌でできている演劇にチャレンジしたというわけ。この段階ではまだまだオペラとは言えないものだったけど、評判が評判を呼んで、この形式はイタリア全土にひろがっていった。貿易で町全体が裕福だったヴェネチアでは、知識人や王侯貴族だけではなく一般市民にもオペラは知れ渡り、いくつもの劇場が出来上がる。このとき上演された作品「ポッペアの戴冠たいかん」(皇帝ネロの愛人ポッペアが正妻オッターヴィアを追い出してその地位につくというすごい話)の、昼ドラマみたいになちょっとドロドロした内容が大うけ。このあたりで、今あるオペラの原型ができあがった。17世紀後半になると、オペラのメッカはナポリにうつり、ギリシャ悲劇などを上演する「オペラ・セリア(※)」と一般市民に人気があった喜劇、「オペラ・ブッフア(※)」の流れが誕生。いまあるオペラはだいたいこのどちらかに分類される。オペラ・セリアのほうでは特にカストラートという、声変りの前に去勢された男性歌手が活躍するオペラが大人気になった。カストラートは広い

音域(3オクターブともいわれている)を滑らかで大きな声量で歌うことができるため、歌とドラマを楽しむというよりは、次第に見世物的なものになるという、残念な結果に。そこで、このままじゃいけない！ とオペラ改革に立ち上がったのが作曲家グルック。ドラマを大事にし、飛びぬけた目玉の歌があるのではなく全体の調和をはかるべきだと主張し、苦戦しながらも何とか軌道修正に成功。そんなイタリアオペラに憧れをもったのが、だれもが名前だけは知っているオーストリアの作曲家・モーツァルト。彼はオペラ・セリアからオペラ・ブッフアまで幅広く作曲し、『魔笛』はモーツァルトオペラの最高傑作と言ってもよいほどの作品に。こうして記念的な大ヒット作が生まれる中、オペラはドイツ・フランス・イギリス・ロシア・アメリカなど、ぞくぞくと他の国にひろがっていったというわけだ。文化は国が変われば形式も変わってくるというもの。たとえば、イタリアでオペラは最初から最後まですべて歌で表現するのに対し、ドイツでは「ジングシュピール」という、セリフを交えた形式にして上演していた。フランスではバレエや合唱をとり入れた規模の大きい「グランド・オペラ」が誕生。一般市民が観る一幕ものの「オペレッタ(※)」もフランス生まれ。チャイコフスキーやドビュッシー、ワーグナーなど、大音楽家はみんなオペラと関わっているから、オペラは後世に残る名曲が多い。現代も各国で斬新なオペラが作り続けられているから、オペラの歴史はまだまだ続くっていうことだね。これから観るオペラが、歴史に名を残す名作になるかもしれないから、見逃すのはもったいない！

(※)右下のオペラ用語集をご覧ください。

## オペラ歌手の声の種類

オペラで重要な部分を占める歌手には、声の高さによる「声域」と、さらに声の性格分けである「声質」という区分によって分けられているので、ちょっとだけご紹介。



声域では女性＝ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、男性＝テノール、バリトン、バスがだいたいの区分。声質には①かるい声質のレッジャー口、②叙情的に歌い上げるリリコ、③劇的な表現をするドラマチックと区分けすることができます。声域は生まれつきですが、声質は訓練次第なので、声質が広がると高貴なお姫様から老婆まで幅広く演じられるようになります。

※この音階はだいたいの目安です。

## モーツァルト作曲の名作をおさらい

### 5分でわかるストーリー紹介

## 『コジ・ファン・トゥッテ』

「僕たちの恋人は、浮気なんかしない！」

18世紀中頃のナポリ。ふたりの若い士官グリエルモとフェルランドは、老哲学者アルフォンゾと口論になってしまいます。理由は、「貞淑な女など存在しない、君たちの恋人も同じだ」とアルフォンゾが言ったため。「僕の恋人フィオルディリージに限って、僕のドラベツラ限ってそんなことはない、証拠を見せる」といきりたつ二人に、アルフォンゾは賭けをしようと提案を持ちかけます。「わたしの言う通りに行動できるなら、その証拠をみせてみよう」。こうして金貨100枚分の、恋人の貞節さを試す賭けが始まります。姉のフィオルディリージと妹のドラベツラが、互いの恋人の自慢話を花を咲かせているところに、アルフォンゾが登場し「君たちの恋人が戦場に行く事になった」と嘘を報告。軍服姿のグリエルモとフェルランドをみて娘たちは嘆き悲しみます。「これで賭けは勝ったも同然」と嬉しくてたまらないグリエルモとフェルランド。別れを惜しむふりしながら、その場を後にします。

乙女をそそのかす、老哲学者&小間使いの最強ペア

あまりの悲しみに、年上の小間使い・デスビーナに八つ当たりしてしまふ姉妹。そんな二人をみて、デスビーナは「男なんてどれも同じ。この隙に恋の火遊びでも楽しんでみなさいな」といいますが、二人は聞かずに持ちません。協力者が必要なアルフォンゾは、デスビーナを買収します。これで準備は万端。グリエルモとフェルランドをアラビアの貴公子の兄弟に変装させ、それぞれ恋人ではない相手を誘惑させます。けれども、そんなことで心がゆるぐ娘たちではありません。娘たちに気丈にはおつけられて、変装した二人はますます喜びます。

### ついに陥落…?!

アルフォンゾは、さらに姉妹に罠をしかけます。「恋が叶わないなら毒を飲んで死ぬ」と姉妹の前で変装した兄弟たちにニセの毒を仰がせたのです。びっくりした姉妹は、医者に変装したデスビーナにいわれたとお

り、兄弟たちを看病します。「自分のために命まで投げ出す人」と次第に心が揺れてくる二人。

むしろドラベツラは「もうどちらの男にするか決めてあるわ」とすっかりその気です。さらに高価なペンダントをプレゼントされて、あっさりと変装したグリエルモに陥落してしまうドラベツラ。いっぽうフィオルディリージは心を動かさずまいと恋人のいる戦地へ向かうとしますが、出る直前にフェルランドに引き止められ、ついに心を許してしまいます。

### 種明かしをしつつも、大団円

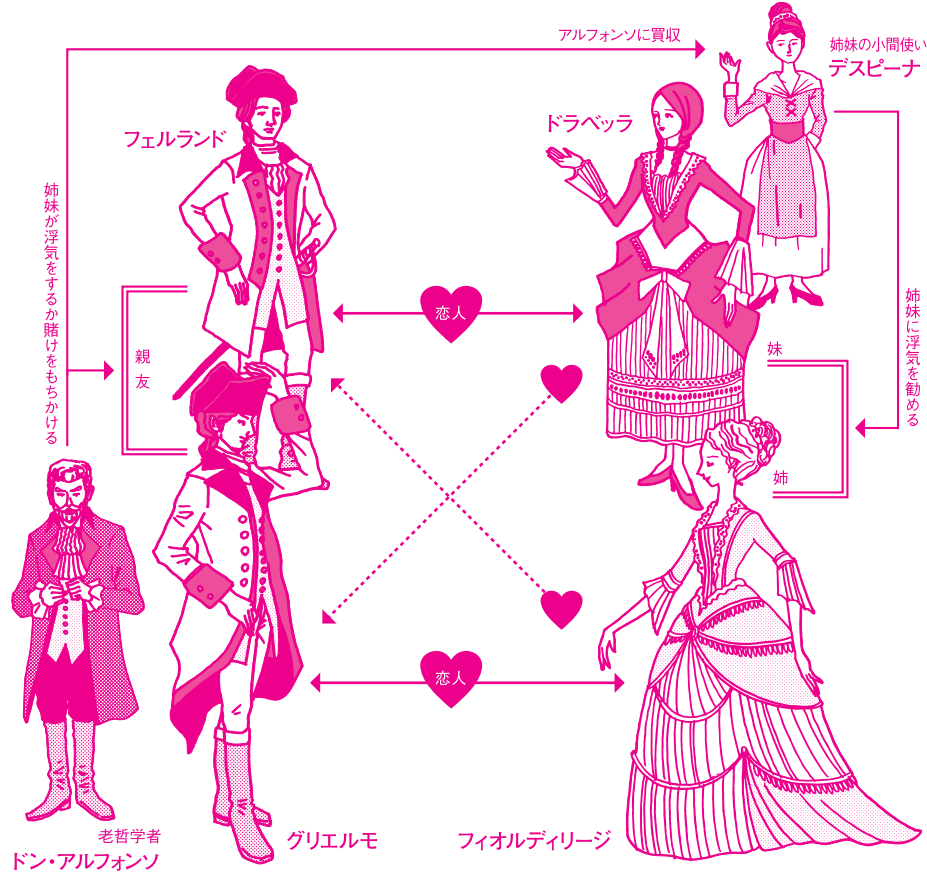
あっという間に、結婚式を挙げることになった姉妹。結婚の署名を終えたまさにその時、恋人たちが帰ってきたとアルフォンゾは伝えます。あわてて兄弟を隠しますが、結婚式の会場は隠せません。戻ってきた恋人たちに責められて姉妹は泣いて謝ります。そこでアルフォンゾがすべては嘘だったと明かし、一同和解して幕を閉じます。

※演出によって、ラストシーンの解釈や時代などが変わる場合があります。

## 『コジ・ファン・トゥッテ』

Così fan tutte

## 人物相関図



## オペラ、ここがみどころ！

オペラにはまる人は、すぐにはまる。どんなところに魅力があるんだろう？観どころさえおさえれば、誰でもすぐに楽しめちゃうというポイントを伝授しよう！

### Point 1

#### 歌声

オペラの歌はアンブラグド(生の声)。何百人、時には何千人もいる客席に向かって声を響かせるものだから、そうとうなもの。しかも、演技しながら正しい音程で…となると、至難の技。まさに声の芸術といえる。難しいことを考えず、ただただ歌声に身を委ねるだけで十分に満喫できるのが、オペラの最大の魅力だ。

### Point 3

#### ストーリー

オペラの多くはイタリア語やドイツ語、フランス語などで上演されるので字幕スーパー付きで観劇することが多い。なので、登場人物やおおまかなストーリーだけでも予習しておく、すんなり楽しめる。オペラは、人間が昔から変わらず持っている愛憎をドラマチックに描いている。400年以上も語り継がれている人間ドラマは、やっぱり何度みても面白い！

### Point 2

#### 生演奏

古典的な作品では、クラシック音楽の大家が作曲していることが多いオペラ。それをオーケストラで聴けるだけでも観に行く価値はたっぷりある。さらに、登場人物の感情の移り変わりによる曲の変化や、迫力の歌声とあいまって、普通の演劇よりつつい感情移入してしまう。選び抜かれた音の粒に、耳を澄ましてみよう。

### Point 4

#### 演出

今は演出の時代と言われているオペラ。作品が作られた時代設定にこだわらず、現代などに置き換えて舞台美術や衣装などをアレンジしている演出も人気を集めている。絢爛豪華な舞台のオペラも魅力だけど、より身近な設定でお手頃な値段というのも、ぐっとオペラを近くに感じるはず。正統派と現代派、見比べてみよう！

## オペラ話にはけっこう出てくる

## オペラ用語集

### 【オペラ・ブッフア】

「ふざけたオペラ」という意味で18世紀に栄えたイタリアの喜劇的なオペラ。「喜歌劇」と訳される場合もある。「オペラ・セリア」の対語。例) ロッシーニ「セビリアの理髪師」など

### 【オペラ・セリア】

18世紀にイタリアでオペラ・ブッフアが盛んになり、それ以前からのシリアスな内容のオペラをさす言葉として使われた。例) モーツァルト「イドメネオ」など

### 【オペレッタ】

もともとは小規模なオペラという意味。19世紀半ばから、大衆に喜ばれる歌や踊りを伴った喜劇のことをさすようになった。例) ヨハン・シュトラウス2世「こうもり」など

### 【グランド・オペラ】

正統的で大規模なオペラ作品全般のこと。狭義には19世紀にバリのオペラ座のために書かれた正統的な作品のこと。例) ヴェルディ「アイダ」など

### 【オペラ・コミック】

18世紀に流行した台詞と歌とをあわせたフランス風のオペラ。「グランド・オペラ」の対語。例) ビゼー「カルメン」など

### 【アリア】

オペラの聴かせどころ。もともとは歌という意味で、登場人物の感情が高まったときに心情を吐露する場面で歌う。

### 【ベルカント】

イタリア語で美しい歌という意味。美しく滑らかな歌唱法やスタイルをいう。イタリア・オペラでこの唱法が用いられる。

### 【カストラート】

16～18世紀のイタリアではよく行われていた去勢された男声歌手。少年の透明感のある声を成人の肺活量で出すため、力強い響きで広い音域の声が出せる。

### 【プリマドンナ】

一番目の女性という意味で、主役の女性のこと。主にソプラノが担当する。男性の場合は、プリモ・ウォーモ。

### 【ブラーヴォ】

演奏が素晴らしかったとき、歌をほめたたえるときに使う観客の掛け声。男性への賛辞。女性にはブラーヴァ、複数の人にはブラーヴィ、女性の複数にはブラーヴェと使い分ける。